

平成 27 年度 第 2 回理事会議事録

日 時：平成 27 年 10 月 22 日（木）17 時～18 時

場 所：京王プラザホテル 5F ダリア

出席者：飯野（理事長）、小川、小林、阪本、鈴木、中川、増田、益田、峯田、守本、山嵜（理事）、松谷（監事）、市村（顧問）、有本、香山、新鍋（幹事）（50 音順、敬称略）

[協議]

(1) 飯野ゆき子理事長挨拶

議事録署名人に峯田理事と益田理事が指名された。本理事会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。

(2) 平成 27 年度第 1 回理事会議事録確認について（飯野理事長）

平成 27 年 5 月 7 日に行われた平成 27 年度第 1 回理事会の議事録を確認した。

(3) 学会会計余金の学術振興特別資産（会計：小林理事）

前回の理事会で繰越金が少しずつ増えている状態について、この資産を特定資産という形にするという提案があった。この点について公認会計士から、法人法に則る必要はないということであり、別口座で 1000 万円くらい特定資産としておいてはどうかという提案をいただいた。このため特定資産として 1000 万円を別口座に移すということを決定し、その用途については後日話し合うこととした。

(4) アジア各国小児耳鼻咽喉科学会 (APOG) との国際交流について (学術国際:小川理事)
海外の学会との交流を深めていくという流れのなかで、Asian Paediatric Otorhinolaryngology Group (APOG) との国際交流が開始された。飯野理事長と中川理事が今年 3 月の APOG に参加してきたことについて報告があった。今後は日本小児耳鼻咽喉科学会の中でもサテライトセッションというものを作り、APOG のメンバーを招待するという案が提案された。

担当校が費用を出すよりも別枠で学会より出して、学会主導で海外から招待する方がやりやすいのではないかという意見が中川理事より提案された。飯野理事長からは SPIO を介した方法も提案された。今後学会の中に委員会を作り、再来年開催の第 12 回学会（会長：春名眞一獨協医大教授）にて開催する可能性について検討していくこととなった。

(5) 小児耳鼻咽喉科診療指針の改訂について（飯野理事長）

2009 年版に準じて、さらにエビデンスを挙げるような書き方で改訂していくこと、ワーキンググループを作り進めていくことが承認された。委員の選出は理事長に一任することとなった。

(6) 新規承認薬と機器の申請募集について（保険医療：峯田理事）

OTOLAM のレーザー加算の申請を検討することが承認された。

(7) 学会誌の編集について（学術誌編集：鈴木理事）

オンライン投稿 J-Stage の募集が今年度は取りやめになり、来年度募集があれば応募することが報告された。

(8) その他

会員情報調査について（HP：益田理事）

オンライン調査をしているが 53%しか集まっていないことが報告された。小児科医師は 10%以下である。会員情報不明の評議員に郵送で調査を行うこととなった。

[報告]

1) 各種委員会の業務組織の変更について（飯野理事長）

日耳鼻から専門医制度連絡担当委員を出すようにとのことで、伊藤理事に決定した。その他、理事全員に各種委員会業務担当を割り当てたことが報告された。

2) 新規評議員推薦結果報告（飯野理事長）

今年度 29 名に新たに評議員になっていただいたこと、小児科医師も増えたことが報告された。小児科の会員も増やしていきたい意向であると話された。

3) 第 11 回日本小児耳鼻咽喉科学会について（庶務：阪本理事）

来年 6 月 30 日、7 月 1 日にホテルクレメント徳島で開催されることが報告された。

4) 評議員の承認について（庶務：阪本理事）

現在の会則（第 14 条の 2）では、理事会で評議員を推薦し、評議員会の議を経て決定することになっている。よって今年度に推薦した評議員の決定が来年に持ち越しとなる。今後は“理事会で推薦し、評議員会で決定する”から“理事会で推薦し決定する”との改訂を会則改定委員会で検討することとなった。

5) その他

滲出性中耳炎診療ガイドライン委員会で滲出性中耳炎の一般向けパンフレットを作成することとなった。その予算は日本小児耳鼻咽喉科学会が負担し、来年度の会計から算出することとなった。